

佐賀市民のスポーツに対する意識と活動の実態に関する調査

【障がい者対象】集計結果

I. 調査の目的

佐賀市スポーツ推進計画を策定するにあたり、障がいのある市民の運動やスポーツに対する意識やそれらの実施状況を把握することを目的とする。

II. 調査概要

1. 調査対象者

身体障害者手帳、療育手帳B及び精神障害者保健福祉手帳所持者のうち、18歳以上の男女600人

2. 調査時期

令和5年12月19日～令和6年1月19日

3. 調査方法

令和5年度の身体障害者手帳、療育手帳B及び精神障害者保健福祉手帳所持者のうち18歳以上のものを障がいの種ごとの割合に応じて対象者数を算出。年齢区分ごとに均等に男女別の対象者数を算出した600人（男女各300人）に対し、郵送により調査票を送付。同封の返信用封筒により調査票の回収を行った。

4. 回収状況

| | | | |
|-------|------|-------|-------|
| 送付数 | 600部 | | |
| 回収数 | 206部 | 回収率 | 34.3% |
| 有効回収数 | 197部 | 有効回収率 | 32.8% |

5. 調査結果の見方

アンケート質問項目については、原則として、本市が平成30年に実施した調査（以下、「前回調査」）と同じものを設定し結果を比較できるようにした。その他本市独自の項目を追加している。

グラフや表の数値は、全体か男女別の回答者数を100とした百分率（%）で表示している。

また、複数回答の場合に記載している、表中のM. T.（Multiple Totalの略）とは、回答数の合計を対象者数で割った比率であり、比率の合計が100%を超える場合がある。

また、グラフや表の全体集計には性別不明の回答も含まれるため、男女別集計の合計と一致しない場合がある。また、年齢別集計で「10代」となっているのは、調査対象となる18・19歳のみを集計となっている。なお、集計は小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。

Ⅲ. 調査結果の概要

1. 回答者の基本的属性

男女比については、「男性」50.8%、「女性」48.2%でほぼ同数（図1）。年齢では、「60代」が18.3%と最も多く、10代を除いて、ほぼ同率の回答の割合となっている（図2）。

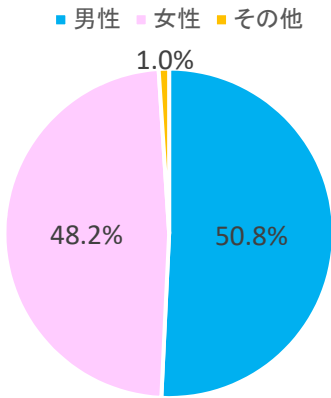


図1. 回答者の性別

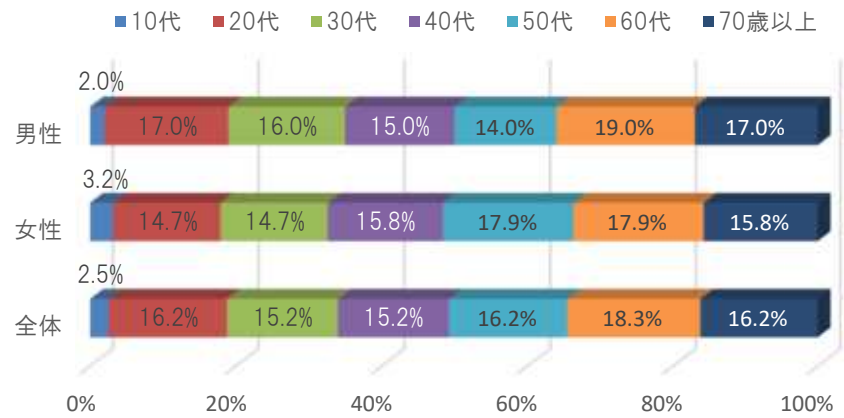


図2. 回答者の年代

回答者の職業は、「無職」が最も多く全体で約3割となっている。次いで「お勤め（パート、アルバイト）」となっている（図3）。回答者の障がいの種別は、「肢体不自由」が最も多く（図4）、回答者の障がいの程度は、「一人で動ける」が最も多く、約5割を占めていた（図5）。

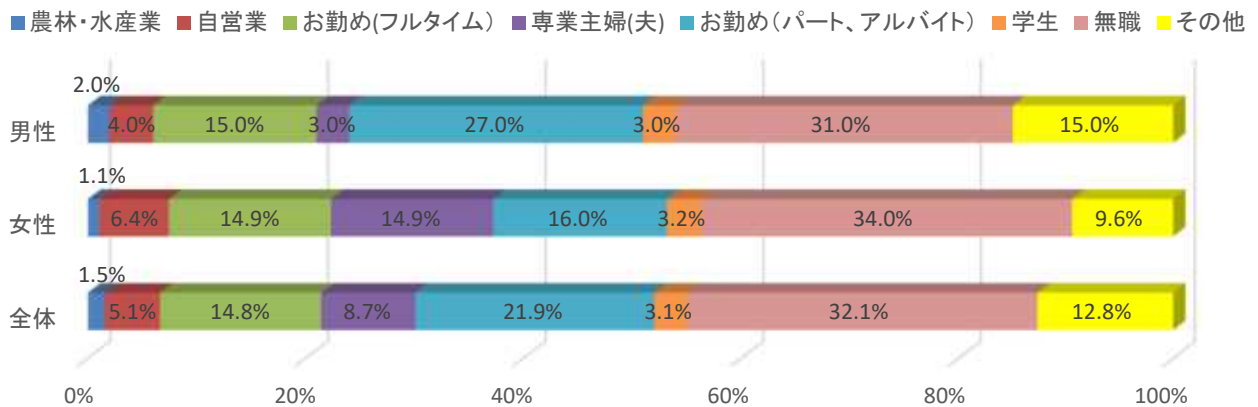


図3. 回答者の職業

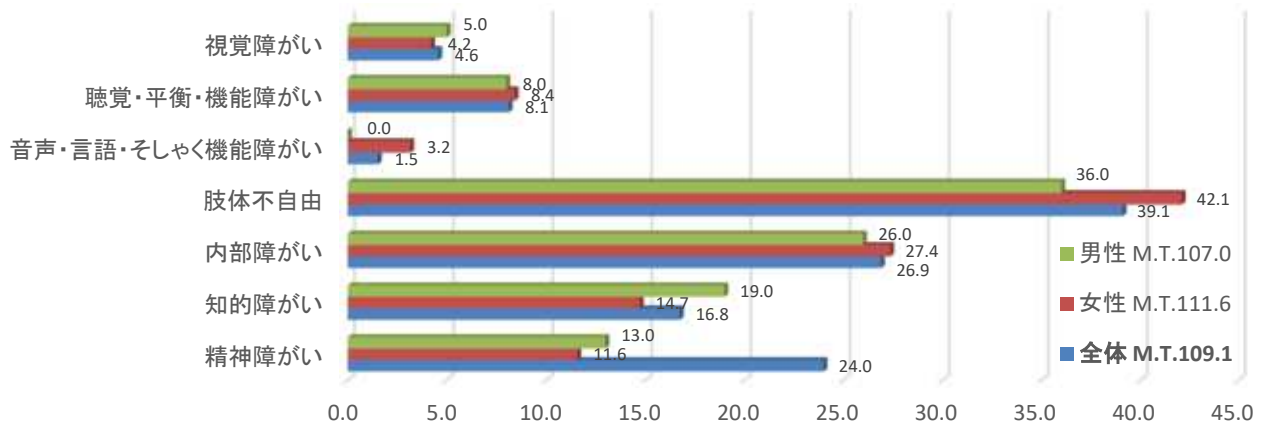


図4. 回答者の障がいの種別

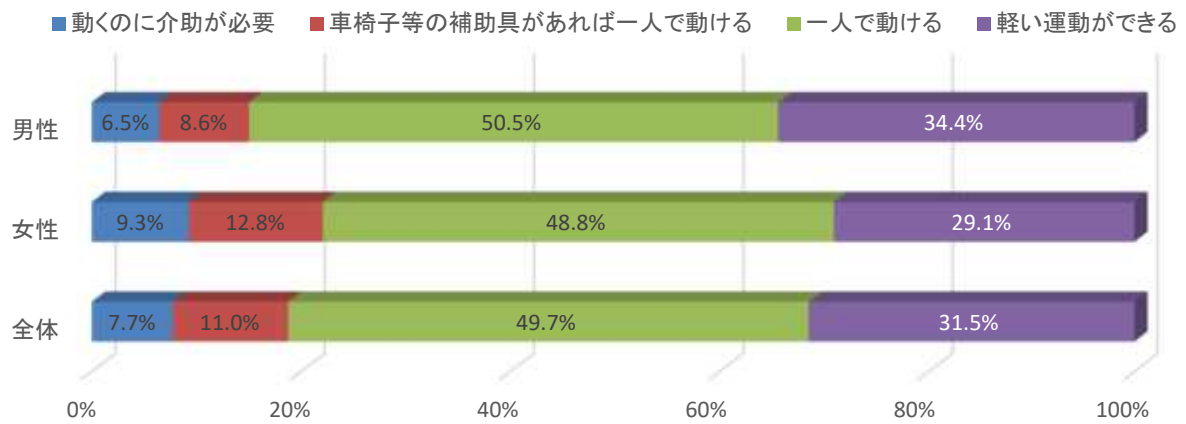


図5. 回答者の障がいの程度

2. 『する』スポーツについて

普段、運動不足を感じるかという問いに対し、男女とも高い割合で、「大いに感じる」「ある程度感じる」という回答であった（図6）。

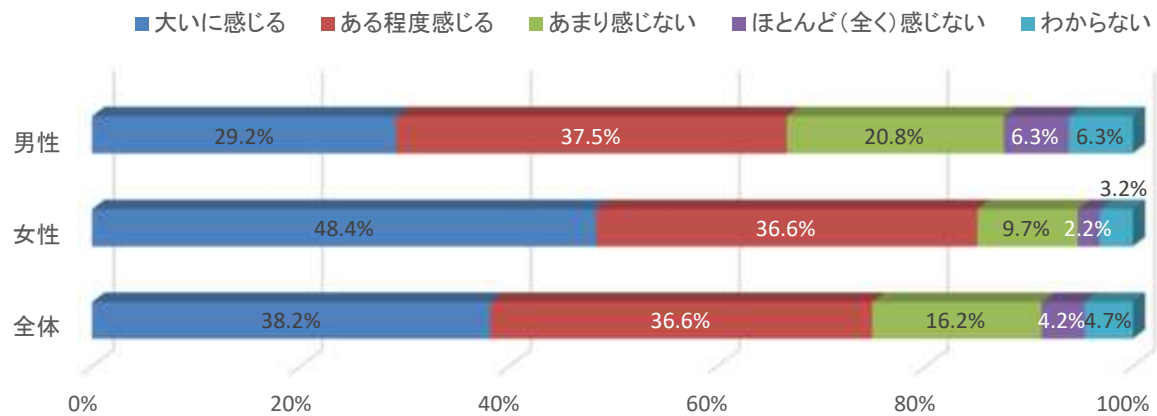


図6. 普段、運動不足を感じるか

運動・スポーツの実施頻度を見ると、「週に1日以上（「週に3日以上」＋「週に1～2日」）実施している人は、全体で42.5%、男性は42.3%、女性は42.5%となっている（図7）。

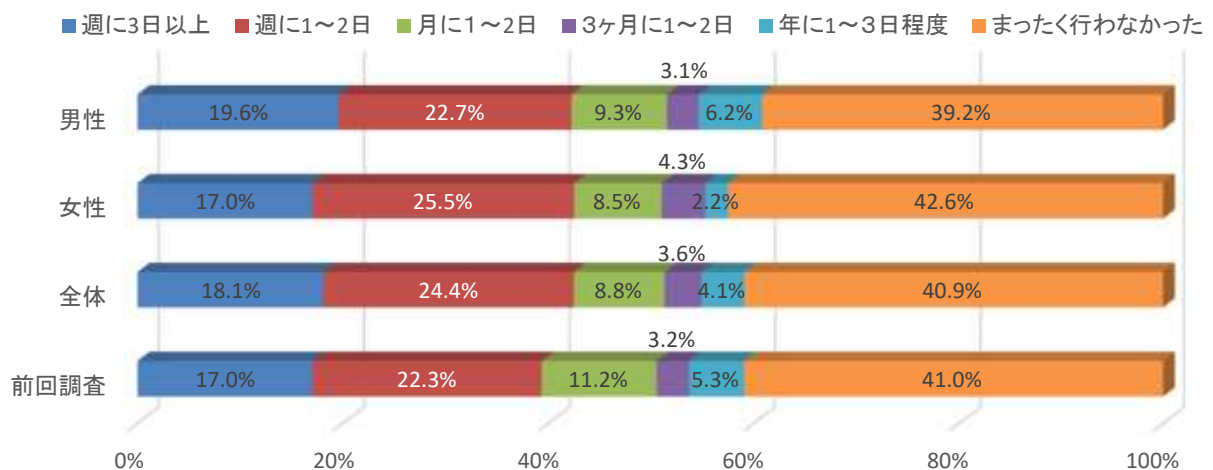


図7. 運動・スポーツの実施頻度

運動やスポーツの実施日について、男性は土日の実施割合が高くなっている。女性は、逆に土日の実施割合が低くなっている（図8）。

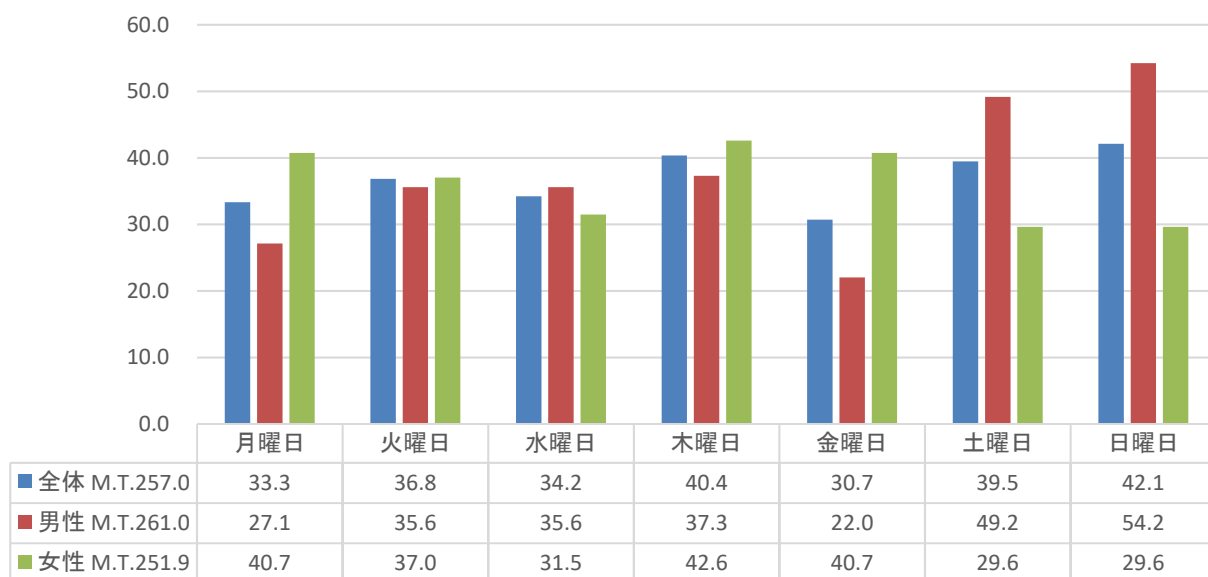


図8. 運動・スポーツの実施日

運動やスポーツを行う目的について見てみると、「健康のため」（全体：57.9%）が最も高い割合で、次いで「体力増進・維持のため」（全体：42.1%）「楽しみ・気晴らしとして」（全体：34.2%）となっている（図9）。

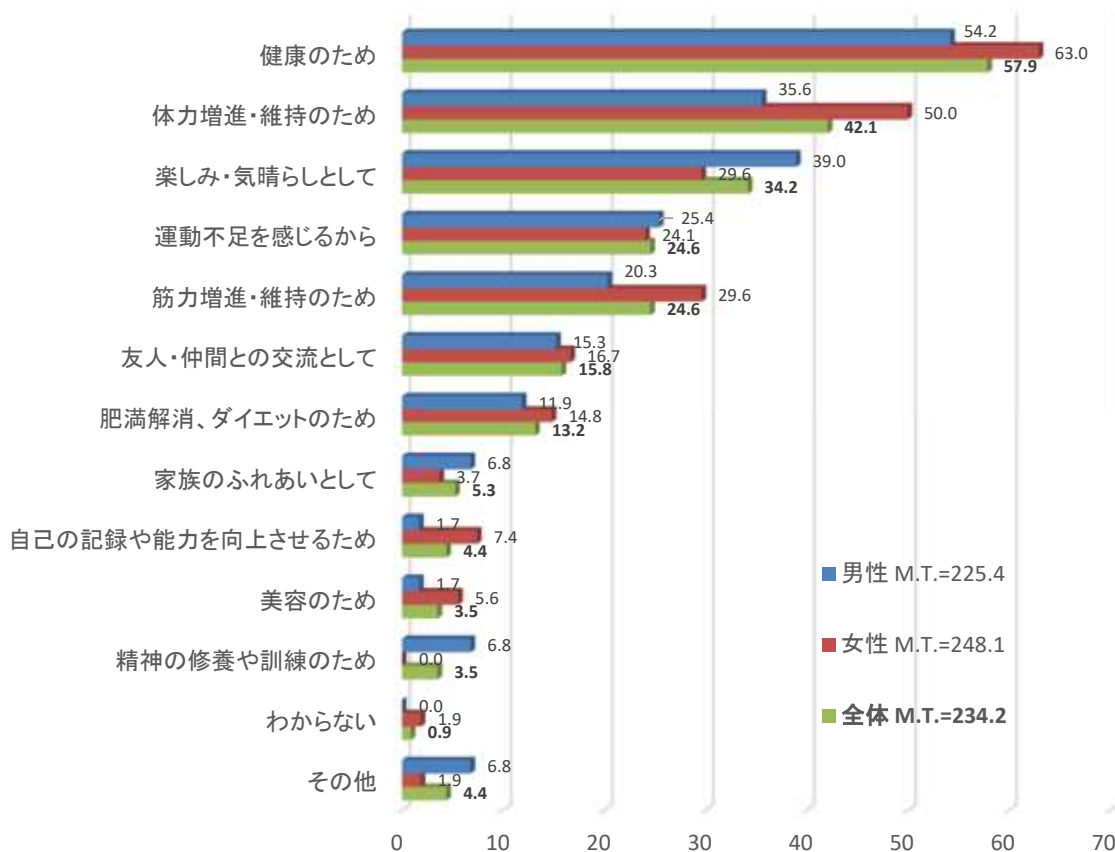


図9. 運動・スポーツの実施理由

1年間に行った運動・スポーツの上位を前回調査と比較したところ、下表のとおり前回とほぼ同じ内容であったが、男性で「階段昇降」や「障がい者スポーツ」が上位にあがり、女性では「階段昇降」が上位になっている。全体調査の上位種目とほとんど差異がなかった。

(%)

| 全体 | 男性 | (前回調査) | 女性 | (前回調査) |
|---------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 1位 ウォーキング (含,散歩)(63.2) | ウォーキング (含,散歩)(57.6) | ウォーキング(含, 散歩)(59.6) | ウォーキング (含,散歩)(70.4) | ウォーキング (含,散歩)(50.9) |
| 2位 ラジオ体操・美容体 操等(22.8) | トレーニング (20.3) | ラジオ体操 (21.1) | ラジオ体操・美容体 操等(29.6) | ラジオ体操 (28.3) |
| 3位 トレーニング (17.5) | ラジオ体操・美容体 操等(16.9) | サイクリング (14.0) | トレーニング (14.8) | ストレッチ (20.8) |
| 4位 階段昇降 (13.2) | 階段昇降 (15.3) | ボウリング (12.3) | 階段昇降 (11.1) | トレーニング (13.2) |
| 5位 障がい者スポーツ (8.8) | 障がい者スポーツ (13.6) | トレーニング・ストレッ チ(10.5) | 水泳 (11.1) | 水泳 (11.3) |

表1. 現在行っている運動・スポーツ

運動やスポーツを「週1回以上していない」理由は、全体で「病気やけがをしているから」「面倒くさいから」「特に理由はない」の順で、割合が高くなっている(図10)。

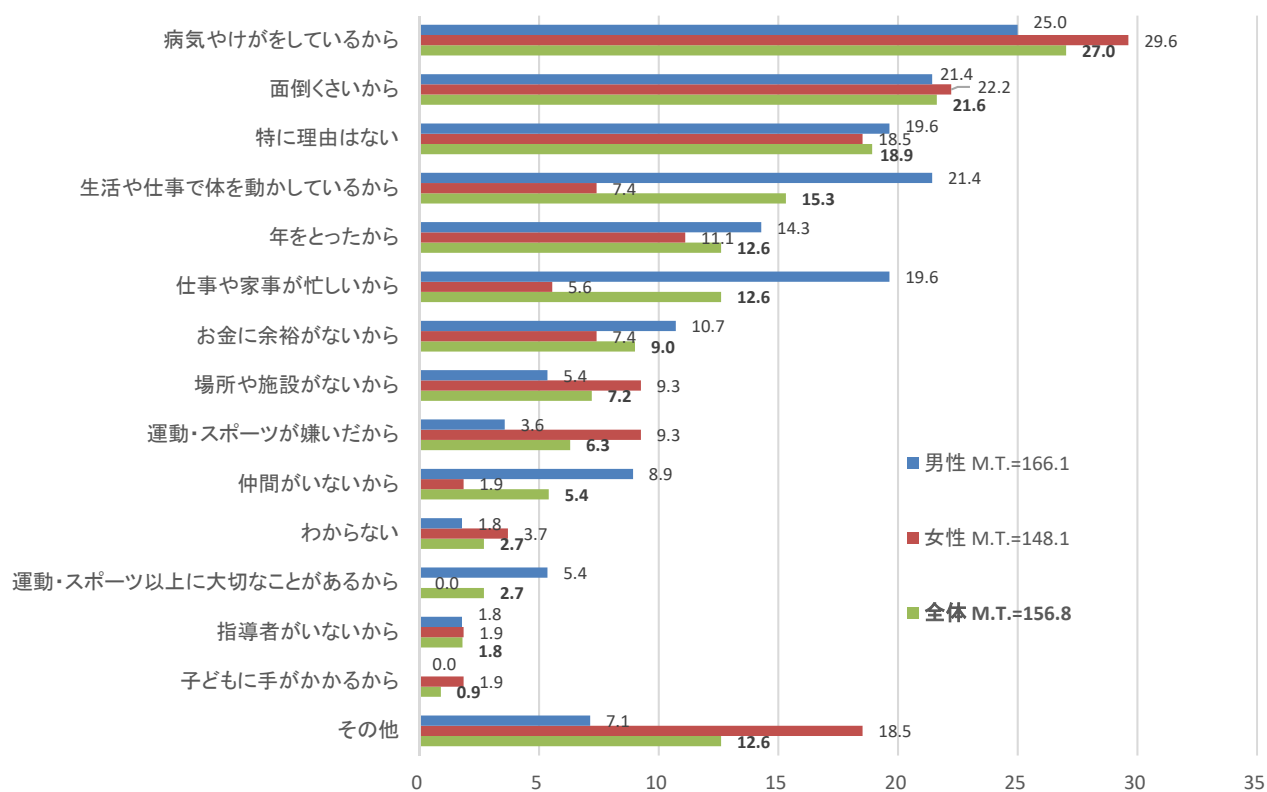


図10. 運動・スポーツを行わなかった理由

ニュースポーツ及び障がい者スポーツの実施経験種目についてみると、「どれも体験したことがない」という回答が最も多い。一般の部の回答と比較して「ボッチャ」「フライングディスク」「ミニバレーボール」といった障がい者スポーツの実施割合は高くなっている（図11）。

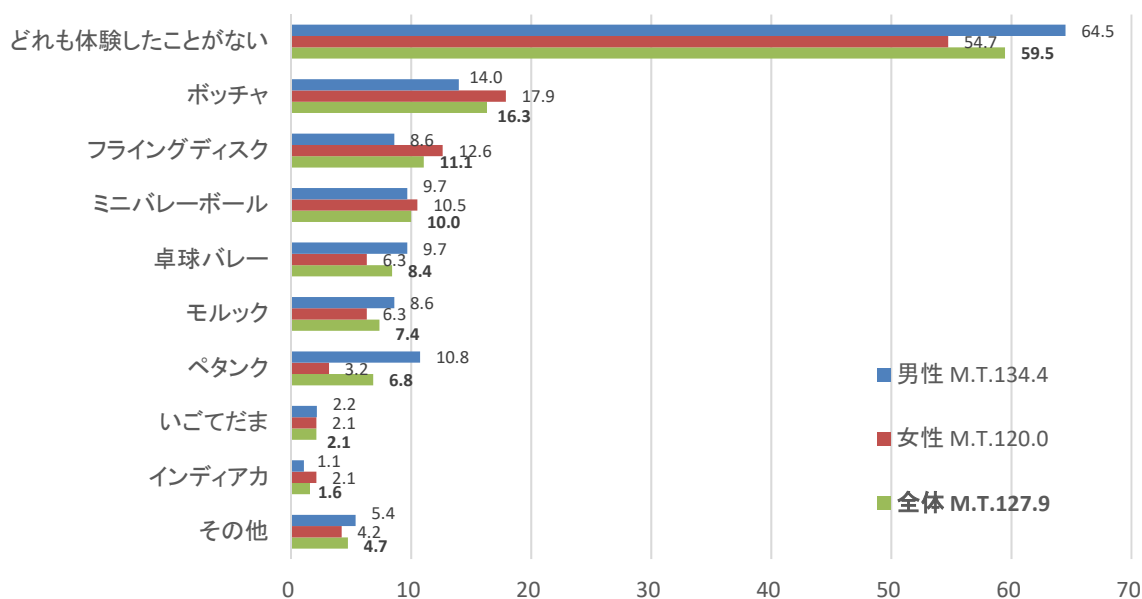


図11. ニュースポーツ・障がい者スポーツ実施経験種目

参加したいスポーツ行事について、女性は、「レクリエーション的行事」と「スポーツ教室」が最も多く、男性は、「レクリエーション的行事」という回答が最も多かった（図12）。

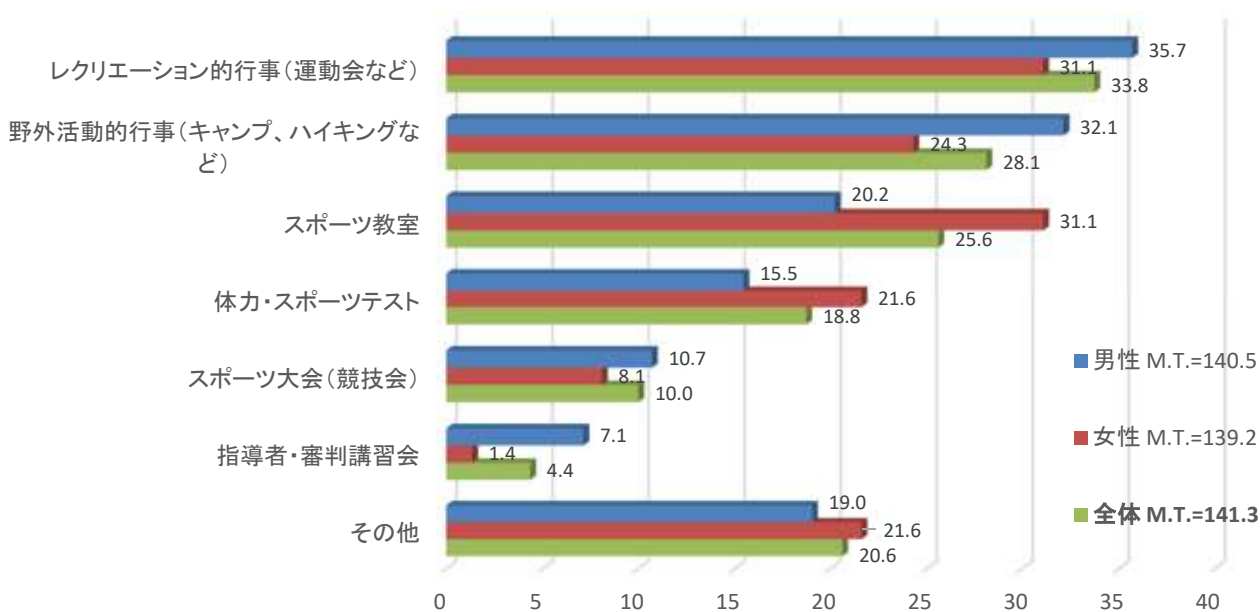


図12. 参加したいスポーツ行事

3. 『みる』スポーツについて

過去1年間でのスポーツ観戦時間（テレビ観戦含む）では、男性の方が観戦時間は長い結果となっている（図13）。

プロスポーツの観戦方法では、「テレビ等（ラジオ、インターネット配信も含む）で観戦した」のみと回答した方が最も多くなっている（図14）。

スポーツを観戦する意味合いは、「話題として必要」が高いものの、「まったく興味がない」も高い割合を示している（図15）。

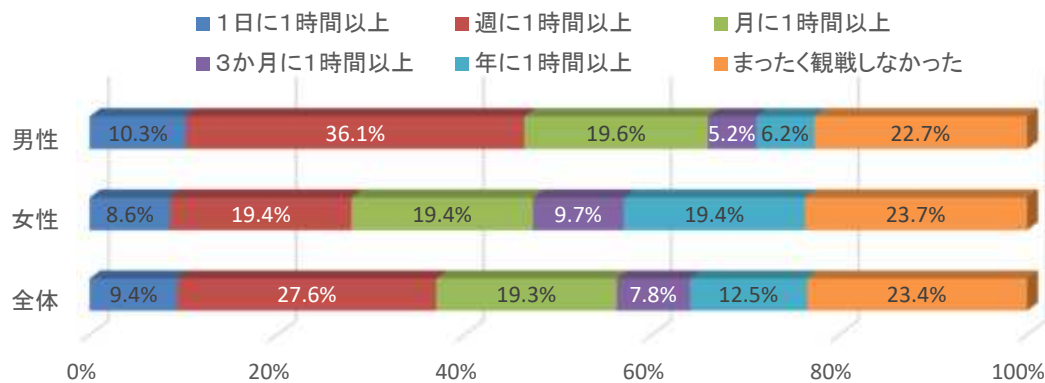


図13. スポーツ観戦時間

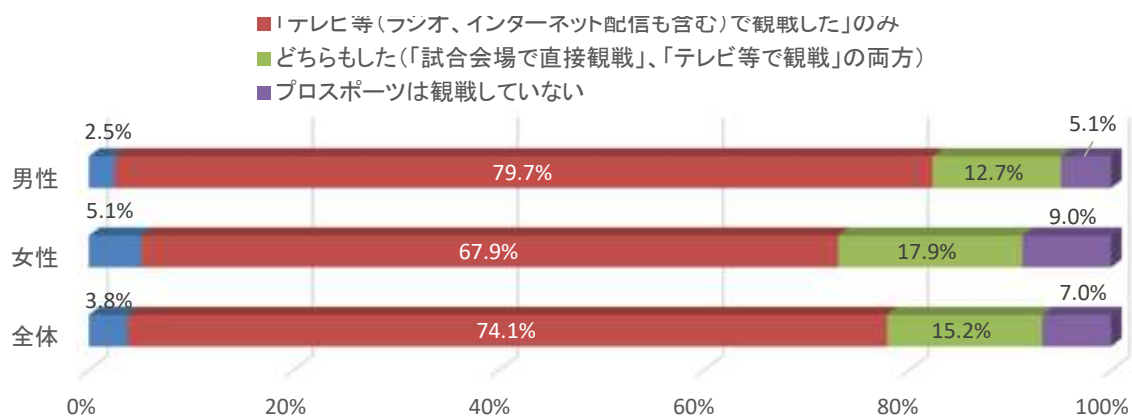


図14. プロスポーツの観戦方法

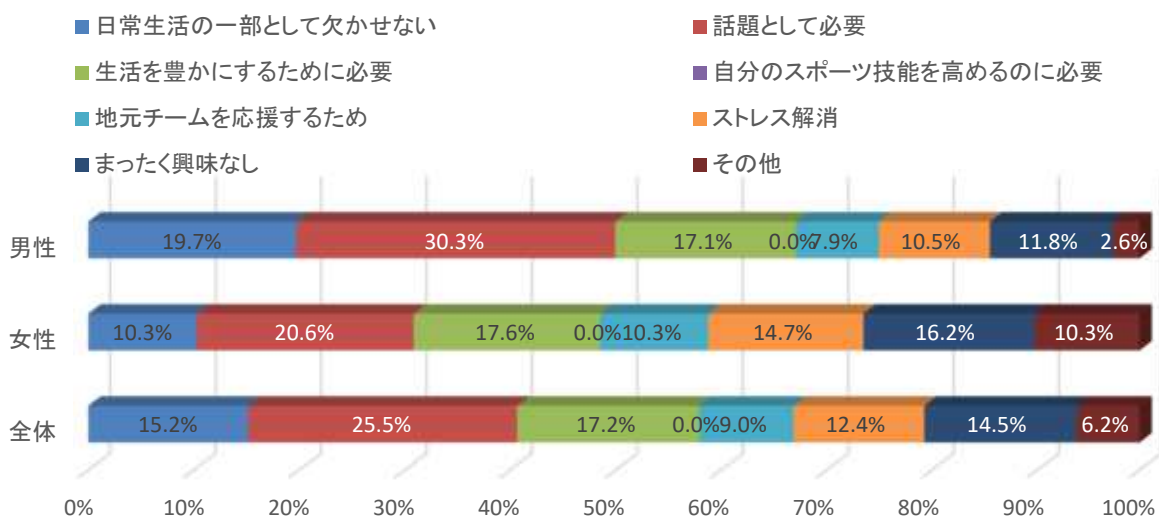


図15. スポーツ観戦の意味合い

試合観戦以外に、プロ・代表チームや大学生などトップレベルのチームや選手などと交流の有無について、12.5%が交流したことがあると回答（図16）。男性が15.5%、女性が8.6%となっていた。

交流したことがある方に、交流した内容を聞いたところ、「競技の教室（技術指導など）」と「地域イベントへのゲスト出演」が最も多くの割合を占め（図17）、その主な理由として、「選手とかかわりたいから」と「誘われたから」が最も多くの割合を占めた（図18）。

また、合宿・キャンプ誘致について、積極的に誘致すべきとの回答が全体で53.4%（男性57.1%、女性49.5%）を占め（図19）、その主な理由として、「地域が活性化するから」「スポーツに関心を持つ人が増えるから」となっている（図20）。これらの割合は、男女比較しても同様の結果であった。一方、誘致する必要はない主な理由として、「興味がないから」となっている（図21）。

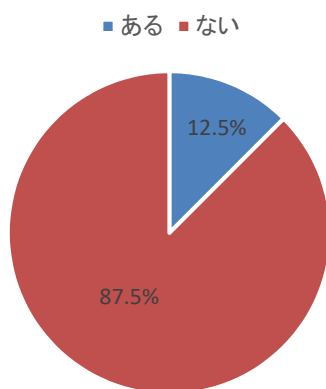


図16. 選手などと交流

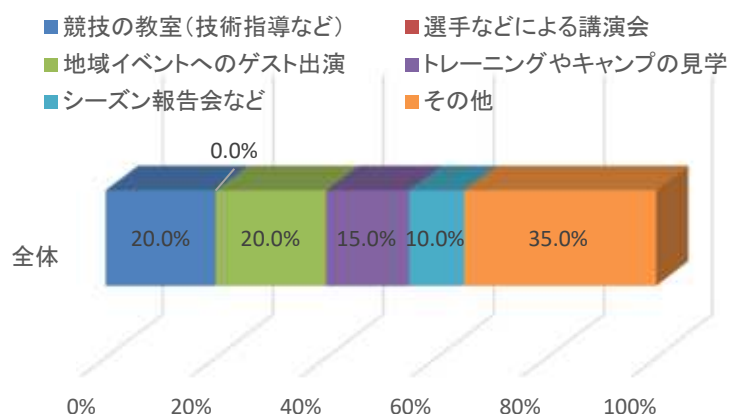


図17. 交流した内容

- プレーの参考にしたいから
- 指導法の参考にしたいから
- 選手とかかわりたいから
- 指導者に関わりたいから
- 学校行事だったから
- 誘われたから
- その他



図18. 交流した理由

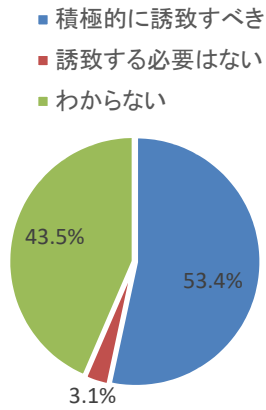


図19. キャンプ誘致の是非

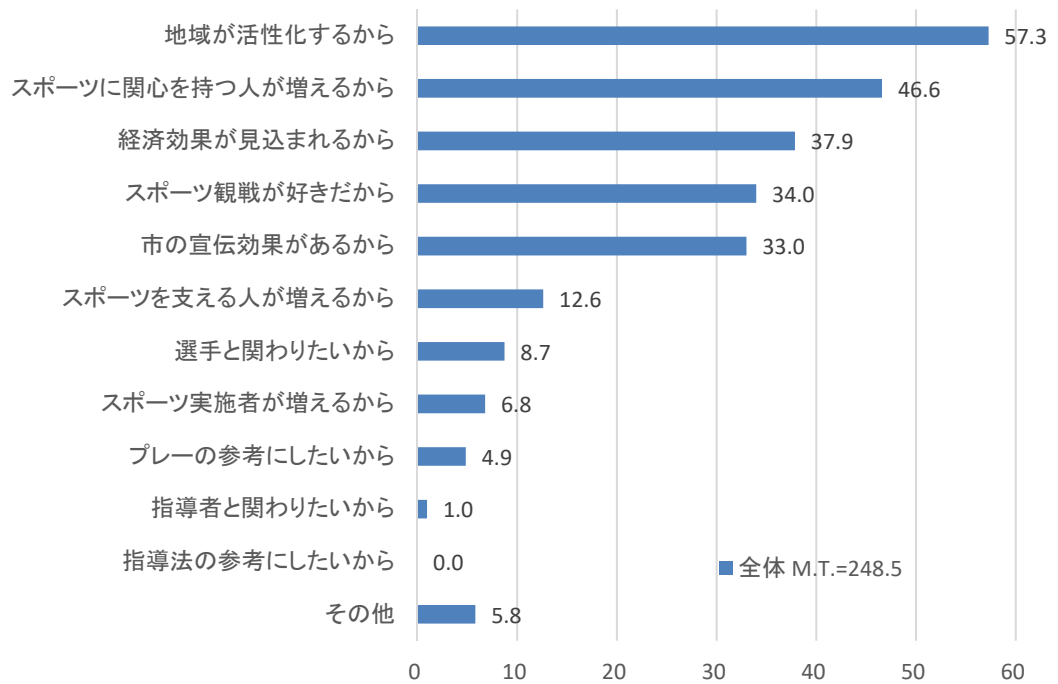


図20. 誘致すべき理由

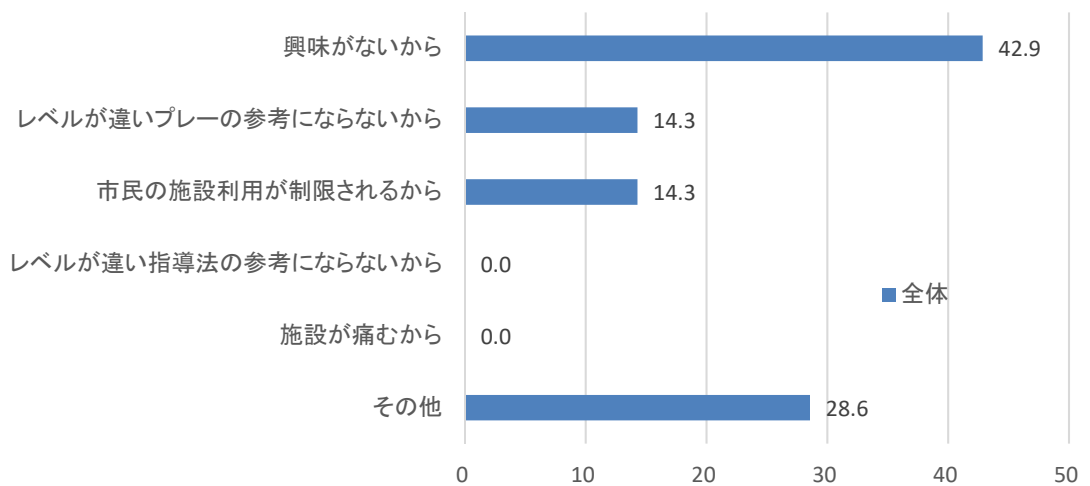


図21. 誘致する必要がない理由

4. 『支える』スポーツについて

佐賀市スポーツボランティア登録制度について、知っているが全体で11.1%となっていた（図22）。また、自分自身が、ボランティアから支援を受けたことがあるかないかについて、たずねたところ、「ある」と回答した人が、全体で13.7%となっていた（図23）。なお、支援に対する満足度は、すべてが「非常に満足」「まあ満足」と回答した（図24）。

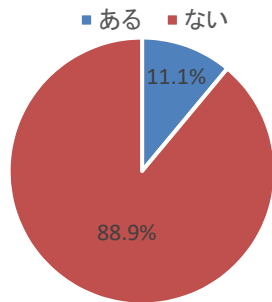


図22. スポーツボランティア登録制度の有無

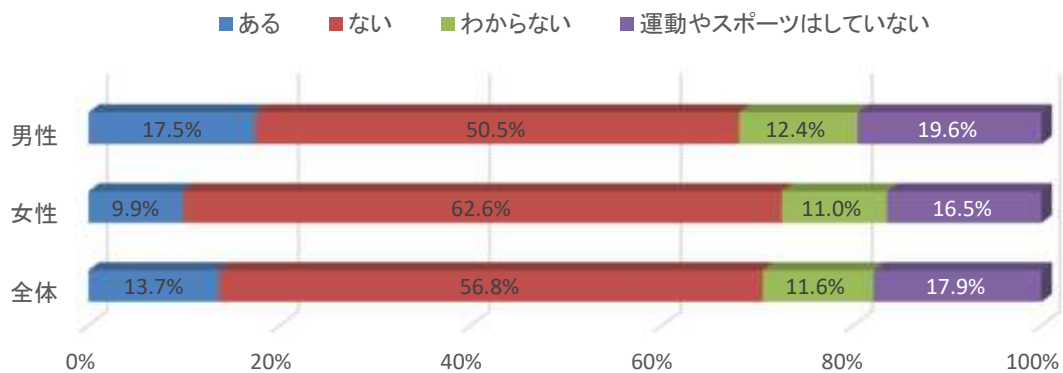


図23. 運動・スポーツ時のボランティアからの支援の有無

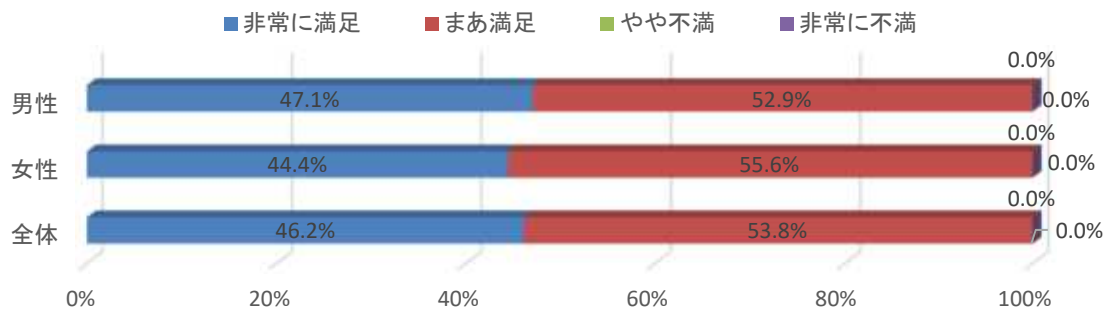


図24. ボランティアの支援を受けた時の満足度

スポーツボランティア経験の有無については、「ある」と回答した人が「全体」で3.7%と前回調査（6.8%）より更に減少した（図25）

スポーツボランティア参加の理由は、女性で「自ら応募した」が全てで、男性では「スポーツ関係団体から頼まれて参加した」の割合が大きくなっている（図26）。

スポーツボランティアの感想は、「楽しかった」が多く、同数で「仲間ができてよかった」「充実感があった」「大変だった」の回答だった（図27）。

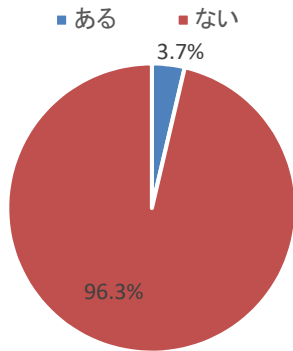


図25. スポーツボランティア参加の有無

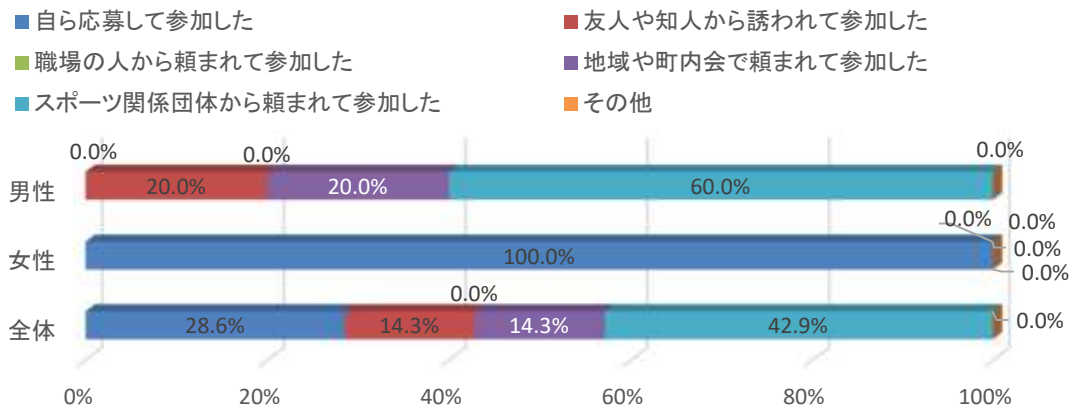


図26. スポーツボランティアの参加理由

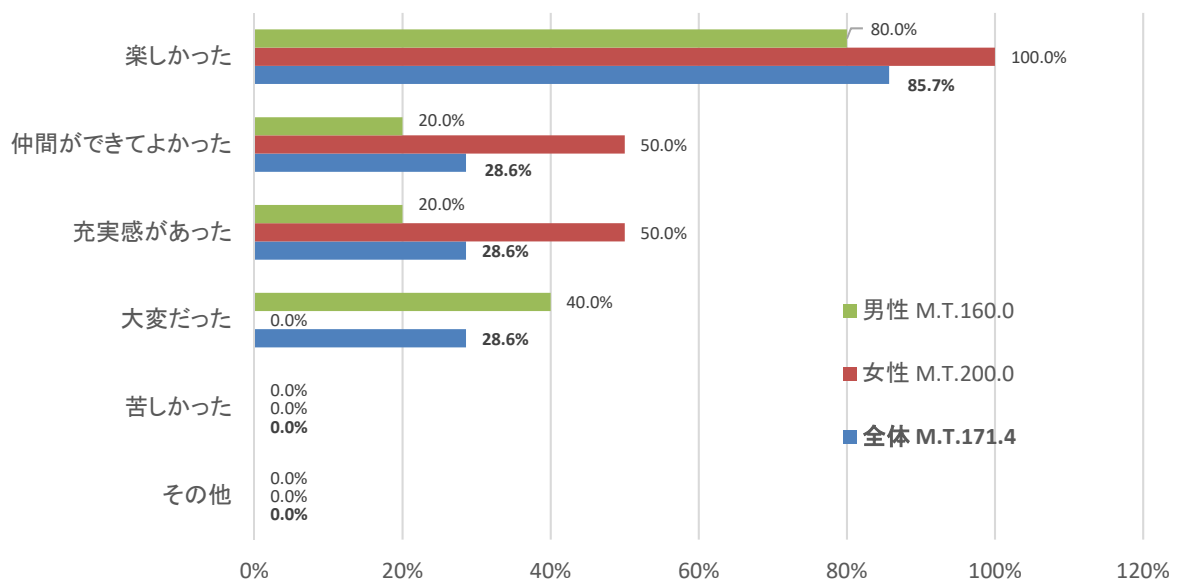


図27. スポーツボランティア参加の感想

スポーツに関するボランティア活動への参加意識については、全体で「是非行いたい」「できれば行いたい」が15.5%となっている（図28）。

「是非行いたい」「できれば行いたい」と回答された人のうち、参加したいスポーツ・レクリエーション活動に対するボランティアは、「障がい者向け教室」が最も多くなっていた（図29）。

- 是非行いたい
- できれば行いたい
- あまり行いたいとは思わない
- まったく行いたいとは思わない
- わからない

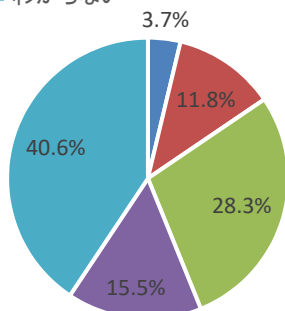


図28. スポーツボランティアへの参加意識

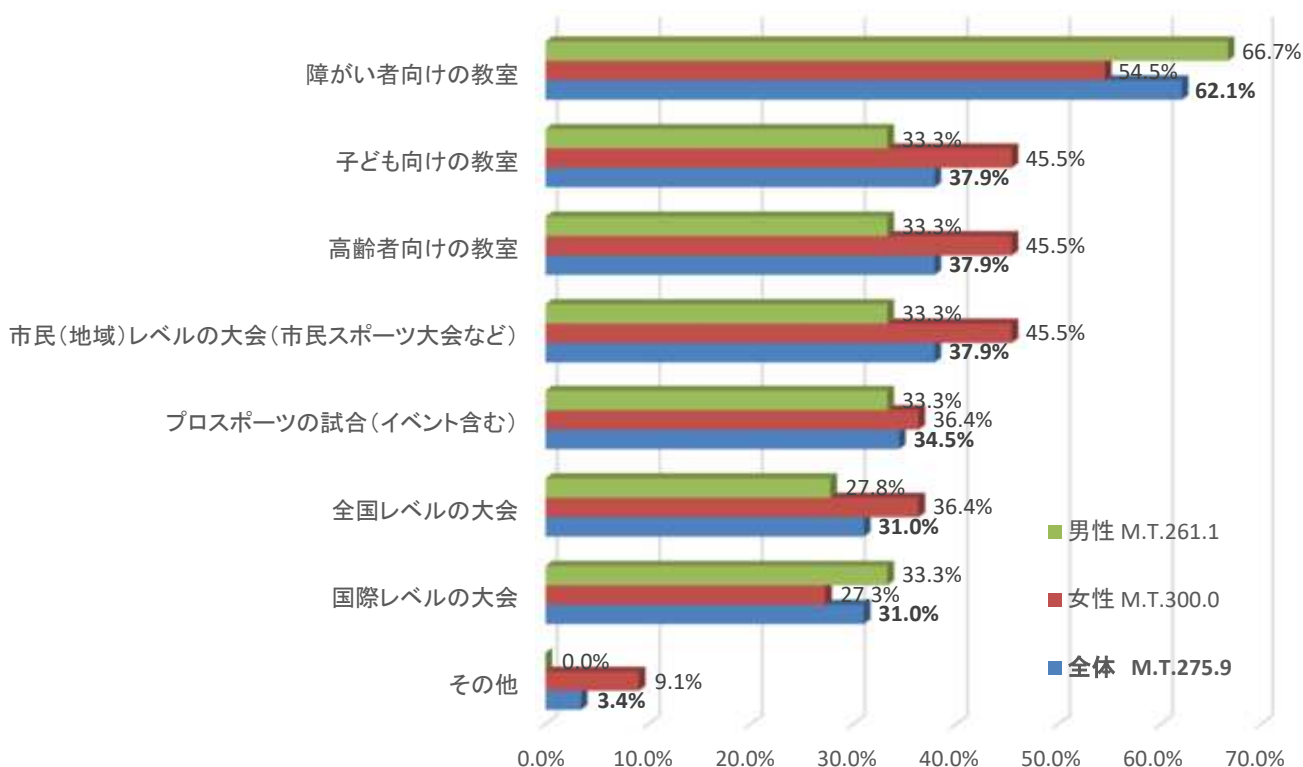


図29. 参加したいスポーツボランティア

5. 総合型地域スポーツクラブについて

総合型地域スポーツクラブの認知度について、「知っている」「聞いたことがある」と答えた人は全体で15.1%と前回調査を上回った（図30）。

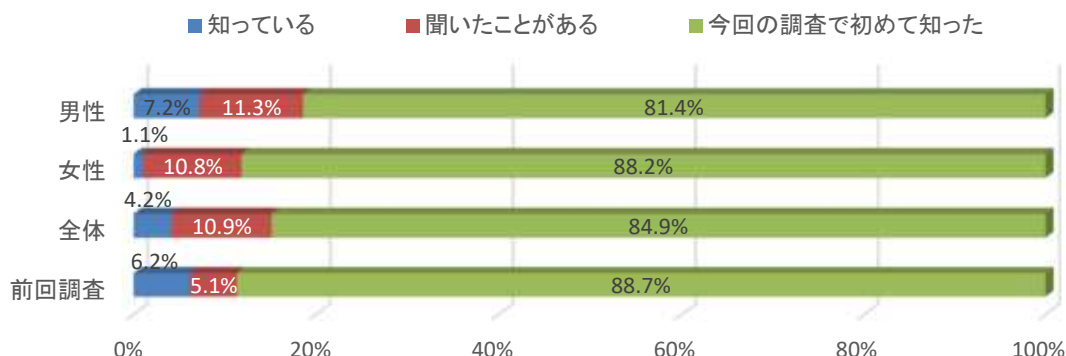


図30. 総合型地域スポーツクラブの認知度

総合型地域スポーツクラブへの加入意思については、「全体」で「加入している」が0.5%、「加入したい」が2.7%と非常に低い（図31）。

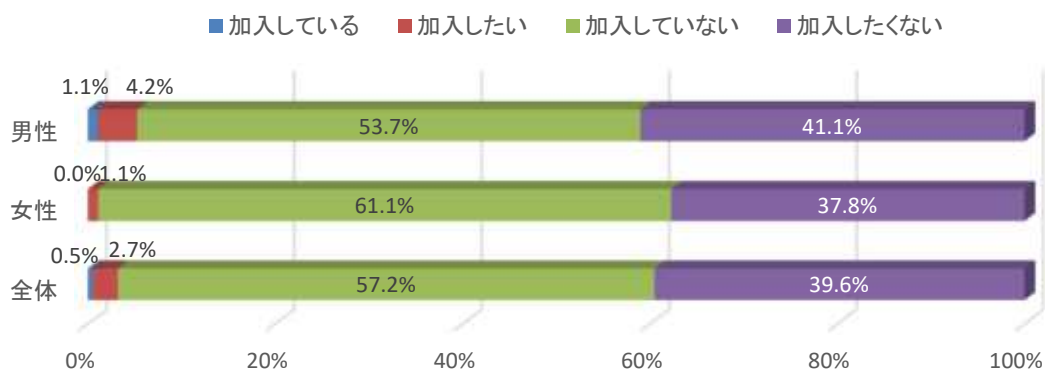


図31. 総合型地域スポーツクラブへの加入意思

「加入していない」「加入したくない」と回答した人の理由として、「障がいがあるから」が最も多く、運動やスポーツを行わない理由と一致している。一方で「情報がない」「活動内容がわからないから」を挙げる人も多く、前回調査と同様に、クラブについての周知不足が要因となっている（図32）。

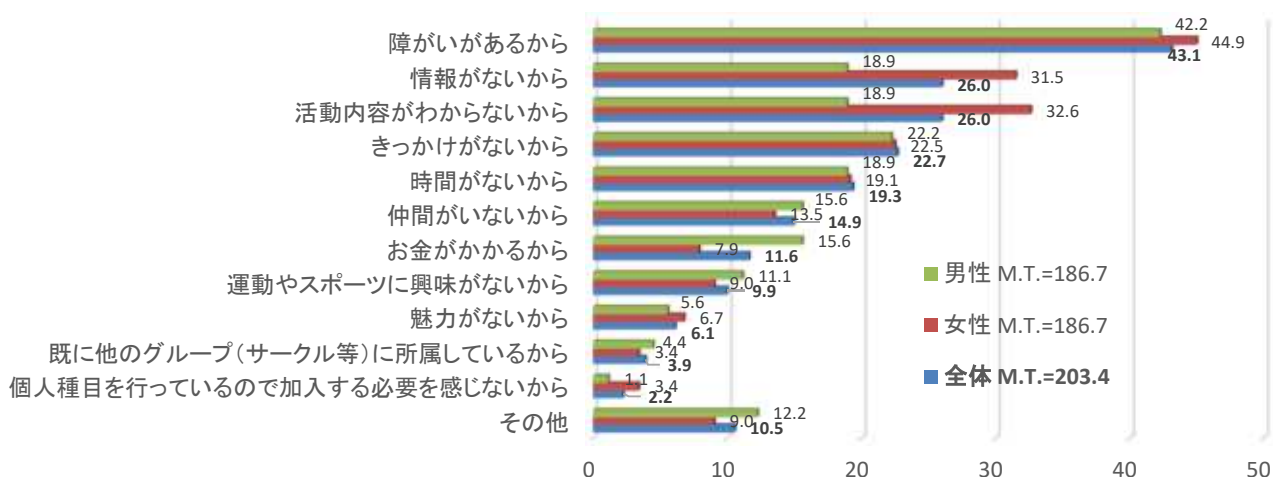


図32. 総合型地域スポーツクラブへ加入しない理由

6. 施設について

学校体育施設の利用については、「全体」の5割程度が「今回の調査で初めて知った」と回答している。「利用したことがある」という回答は16.0%であった（図33）。

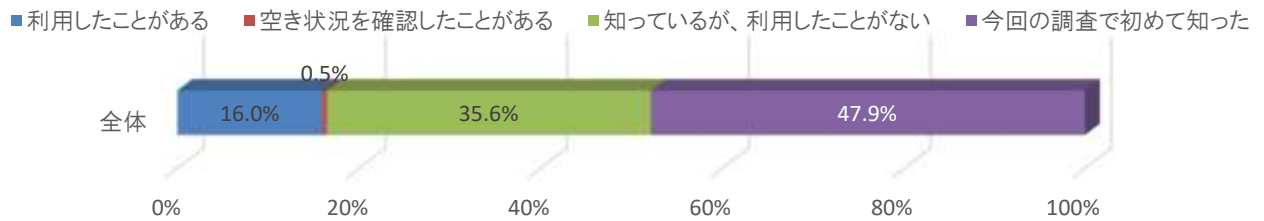


図33. 学校体育施設の利用

日頃、運動やスポーツを実施する場所としては、全体では「自宅・友人宅」の割合が高くなっている。男性・女性ともに「自宅・友人宅」と比較的自宅に近い場所を利用している。また、「その他」には施設での実施が含まれている（図34）。

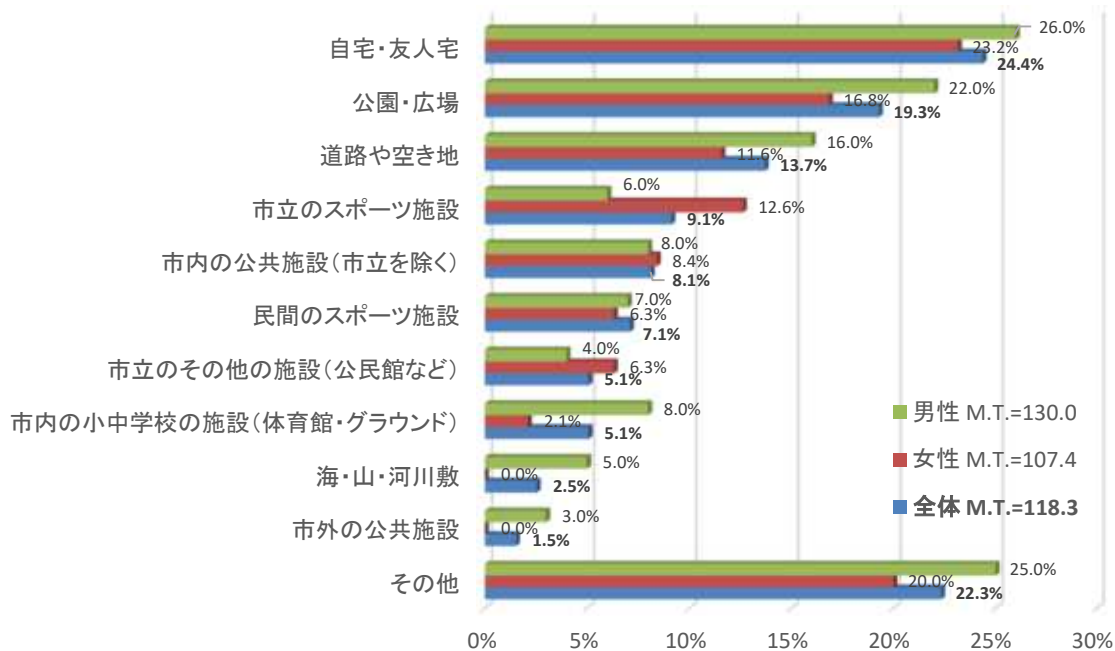


図34. 運動・スポーツの実施場所

運動やスポーツを実施する時間帯としては、男性・女性とも「午前」が最も多い結果となった（図35）。

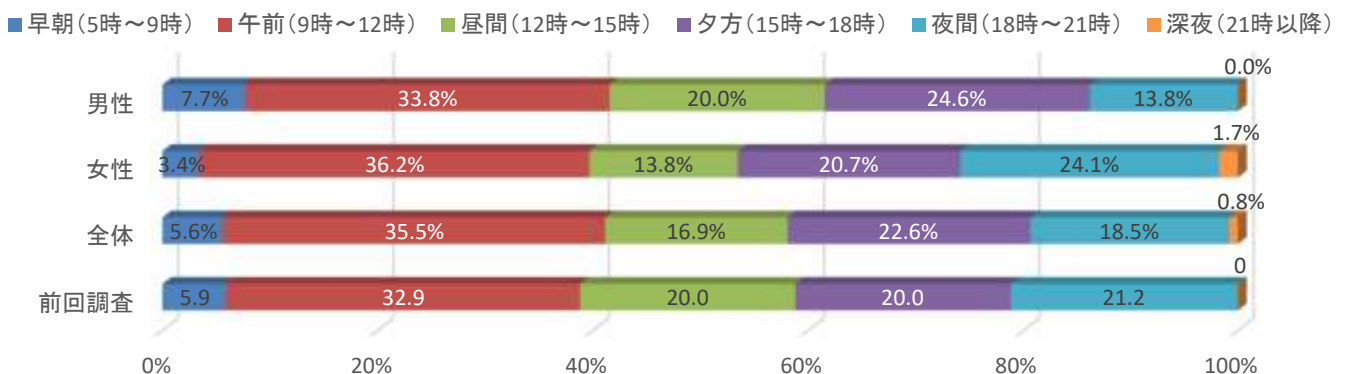


図35. 運動・スポーツの実施時間帯

移動手段は、「自家用車、バイク」、「徒歩」の順に割合が高くなっているが、「送迎」の割合が高くなっている（図36）。

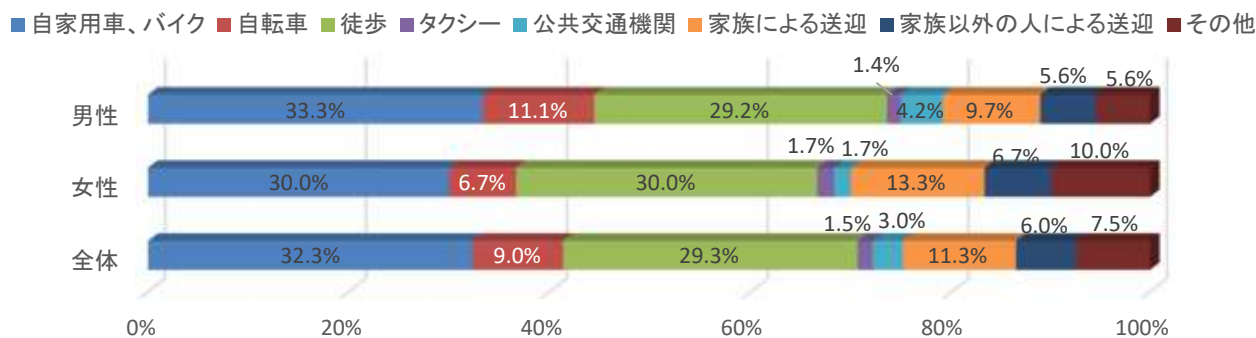


図36. 運動・スポーツをする場所(施設)への移動手段

普段の運動やスポーツを実施している場所については、約8割が「まあ満足」「非常に満足」と回答しており、否定的な「やや不満」16.9%、「非常に不満」2.9%の割合を大きく上回っている（図37）。

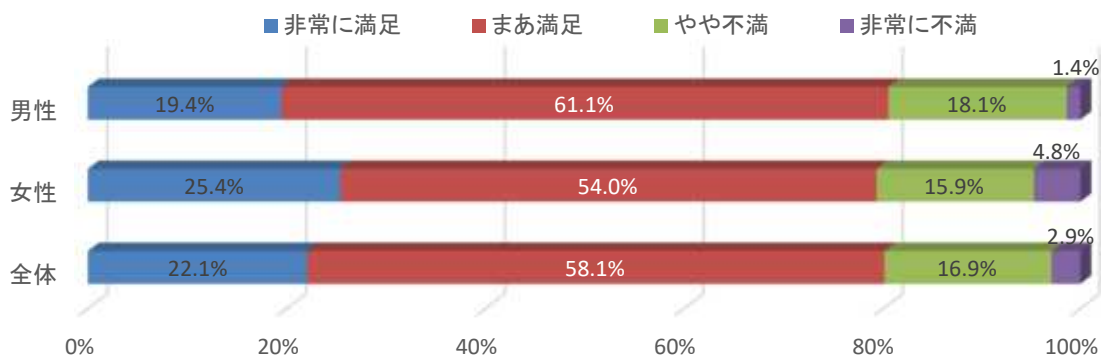


図37. 運動・スポーツをする場所(施設)の満足度

普段、運動やスポーツを行っている場所(施設)への不満は、「家から遠い(不便)」という立地に対する回答が最も多かった(図38)。

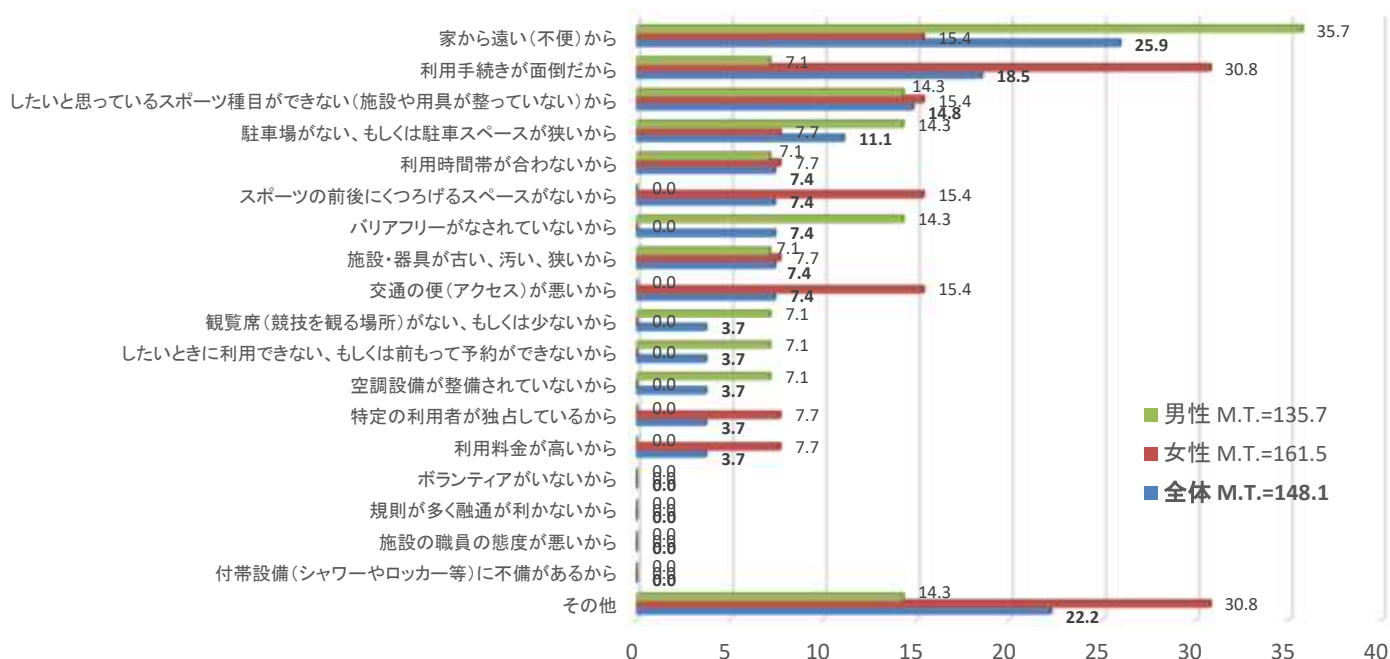


図38. 運動・スポーツをする場所(施設)への不満の理由

市立のスポーツ施設に対する要望としては、「全体」で「特になし」が多い。次に「運動やスポーツ教室の充実」が全体で高くなっている（図39）。

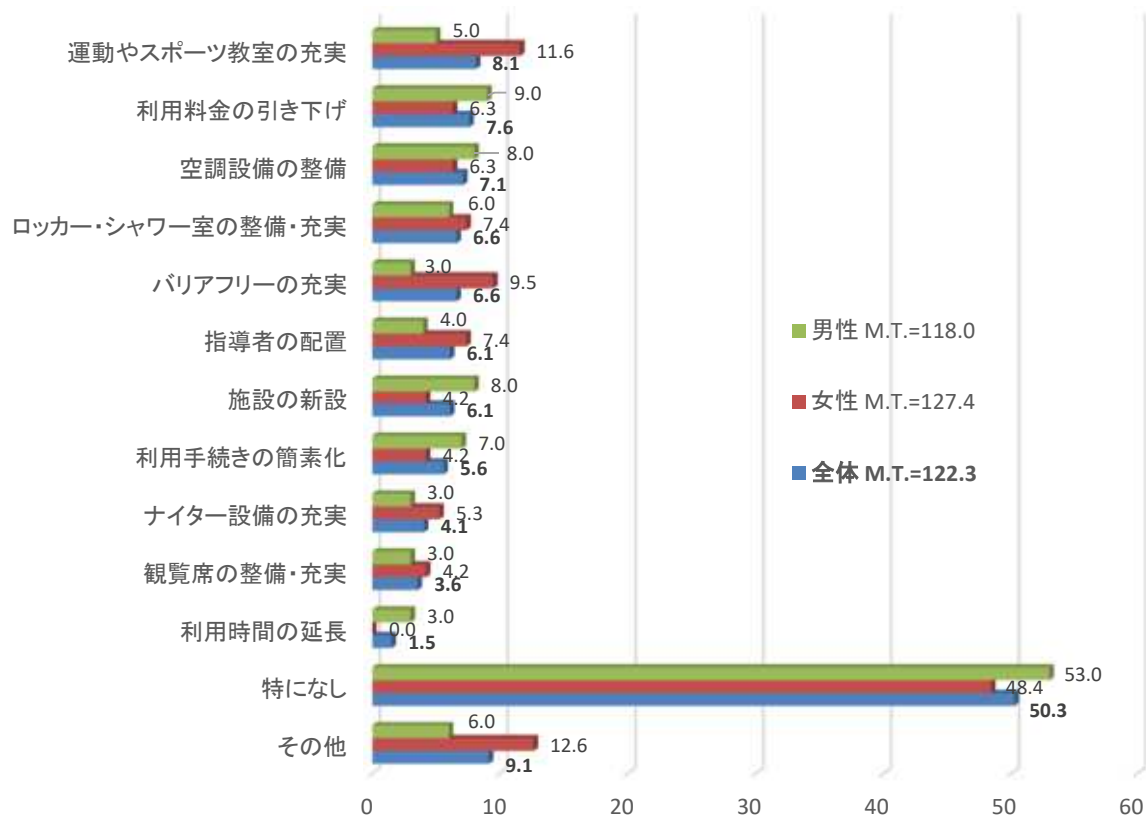


図39. 市立のスポーツ施設への要望

④ 市立の施設への要望で「その他」と回答した人の意見（一部抜粋）

- ・施設の周囲に大きな木を植樹して欲しい。
- ・網戸をつけて欲しい。
- ・障がい者割引の手続きに時間がかかると言われた。

施設予約システムについては、「予約したことがある」と答えた人が全体で5.6%、「空き状況を確認したことがある」が1.7%となっている。

前回調査と比較すると認知度、利用者が微増している状況にある（図40）。

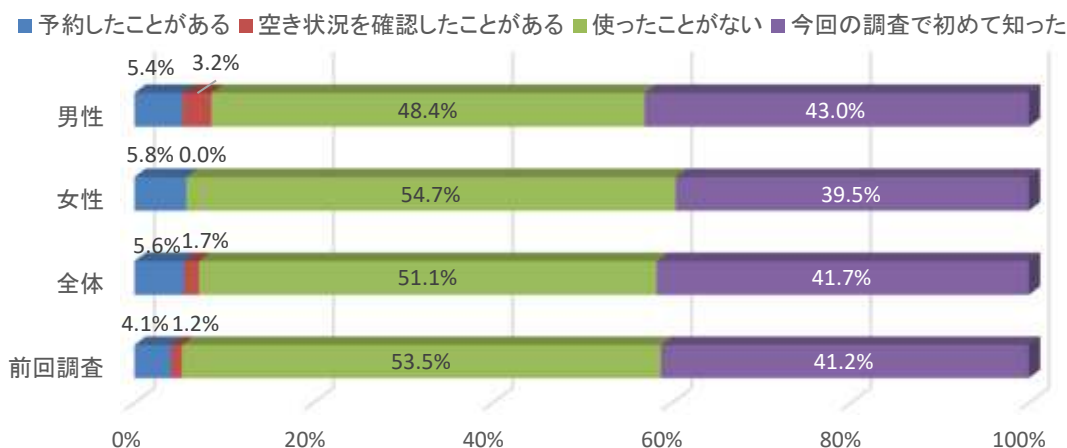


図40. 施設予約システムの利用

7. その他

(1)e-スポーツについて

「e-スポーツ（エレクトロニック・スポーツ）」については、約76%が「知っている」「聞いたことがある」と回答している（図41）。また、スポーツとして捉えるかについては、「判断できない」が過半数を占めた（図42）。関心度は全体で28.9%が「非常に興味がある」「興味がある」と回答しており（図43）、形態としては「するスポーツ」「みるスポーツ」が過半数を占めている（図44）。

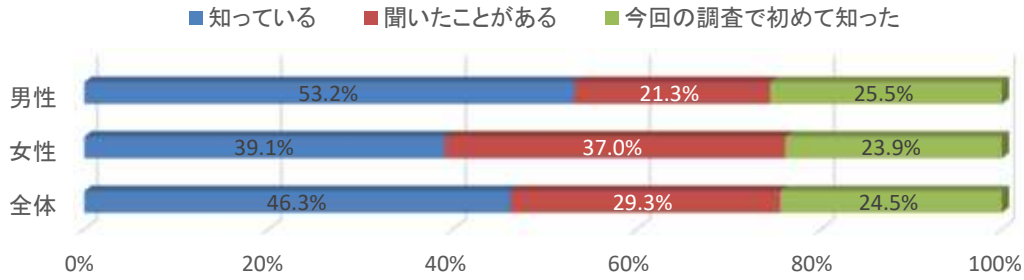


図41. e-スポーツについて

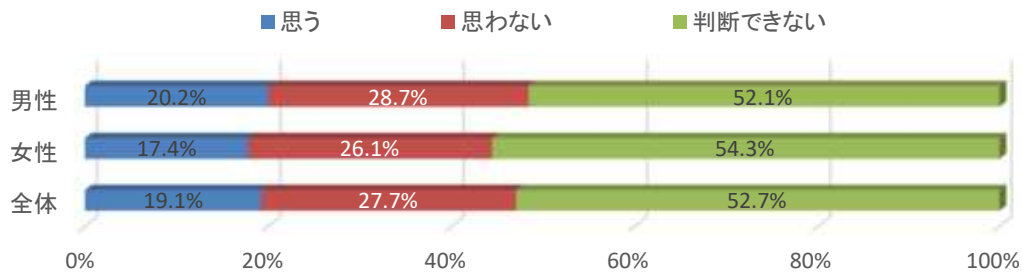


図42. e-スポーツをスポーツとして捉えるか

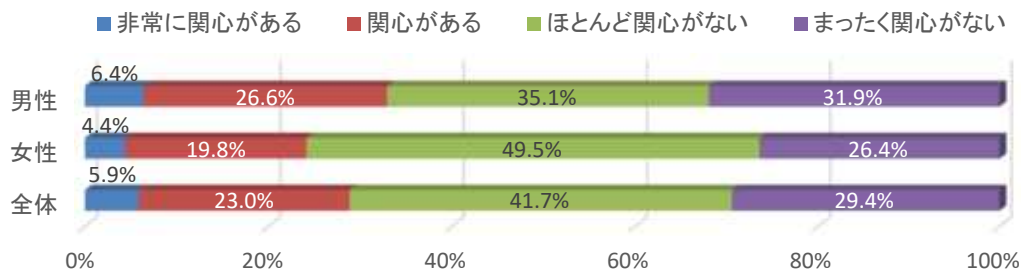


図43. e-スポーツへの関心度

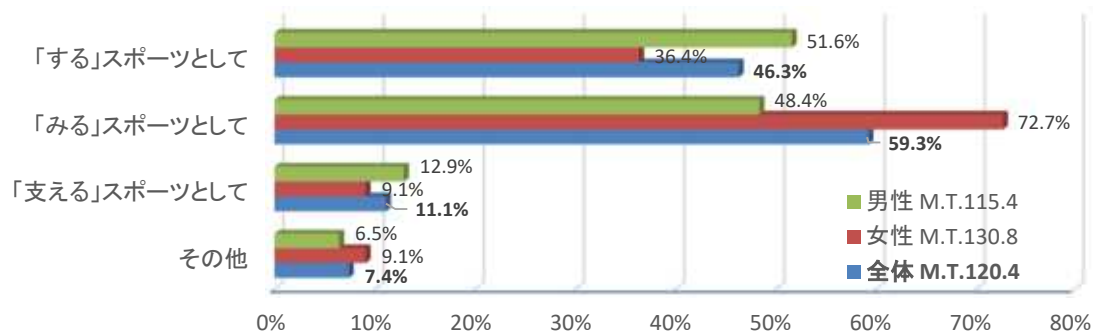


図44. e-スポーツへの関心の形態

(2)障がい者スポーツについて

障がい者スポーツについては、「非常に興味がある」「興味がある」が「全体」で58.2%となっており、男性・女性の違いはほとんどない（図45）。

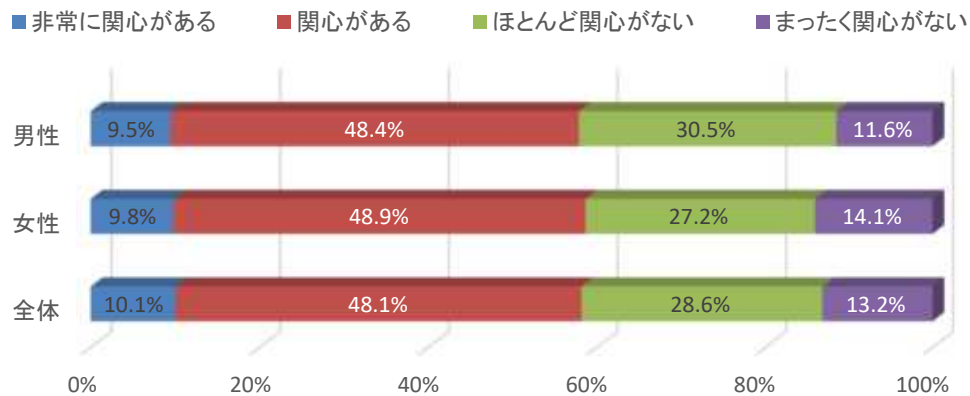


図45. 障がい者スポーツへの関心

障がい者スポーツに「非常に興味がある」「興味がある」と回答した人の関心の形態は、「するスポーツ」と「みるスポーツとして」が大半を占めている（図46）。

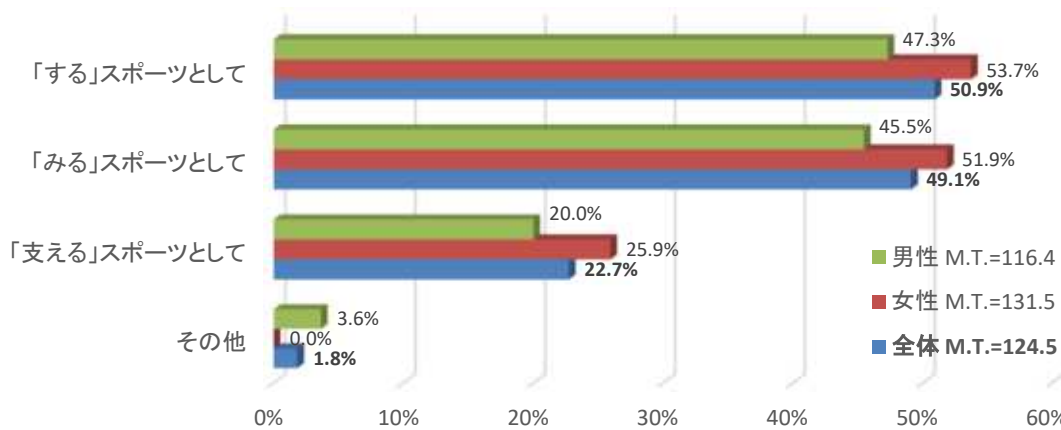


図46. 障がい者スポーツ関心の形態

障がい者スポーツの発展のために必要なものは何か、複数回答で訊ねたところ、「障がい者が利用しやすい施設の整備」が最も多く、次いで「パラスポーツへの理解」となっていた（図47）。

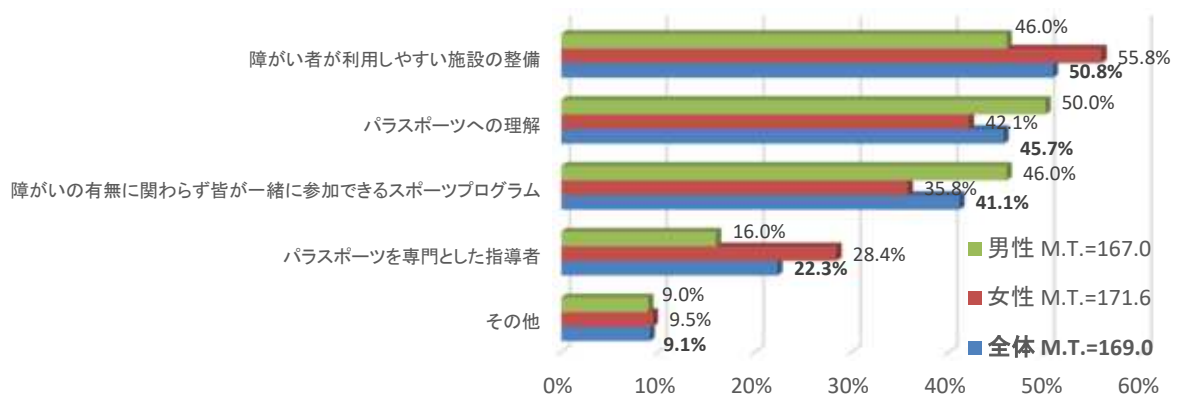


図47. 障がい者スポーツ発展のために必要なもの

(3)市のスポーツに関する情報の収集について

市のスポーツに関する情報収集手段として最も高い割合を示したものは全体、男性、女性において「テレビ」が最も多く、ついで「市報」が多い値を示している（図48）。

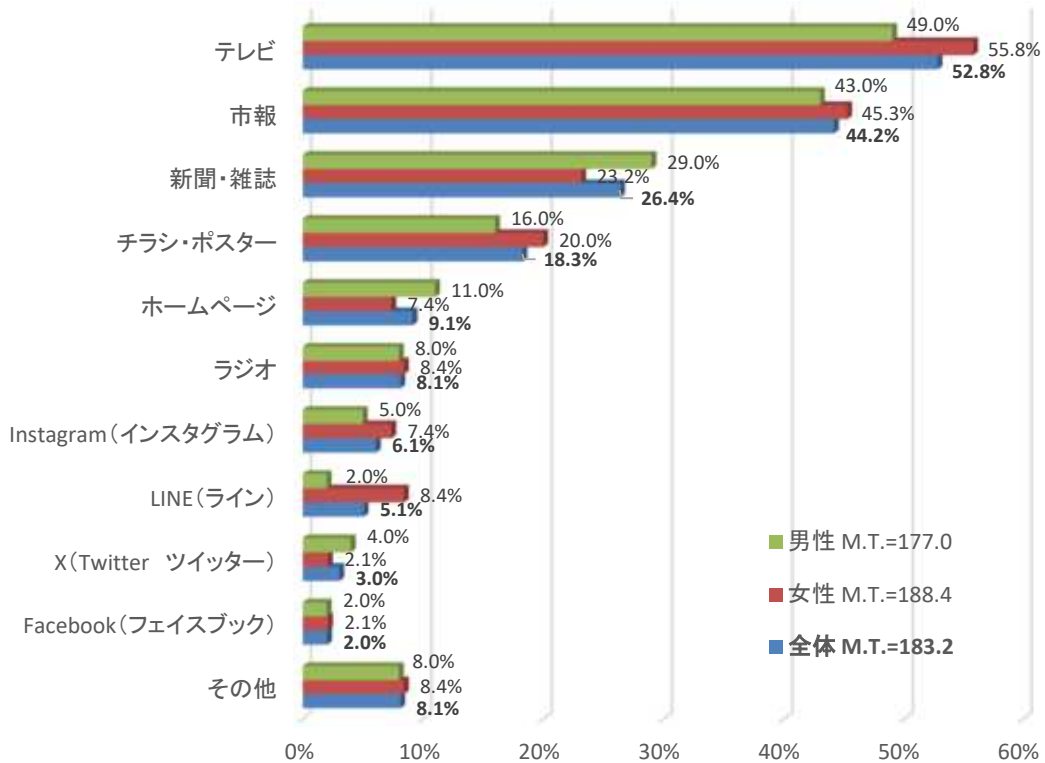


図48. 市のスポーツ情報の収集手段

(4) 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会について

2024年に佐賀県で開催予定の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会を控え、選手・チームの競技力向上のために最も重要なことは、男女ともに「ジュニアアスリート発掘・育成事業の充実」となっていた（図49）。

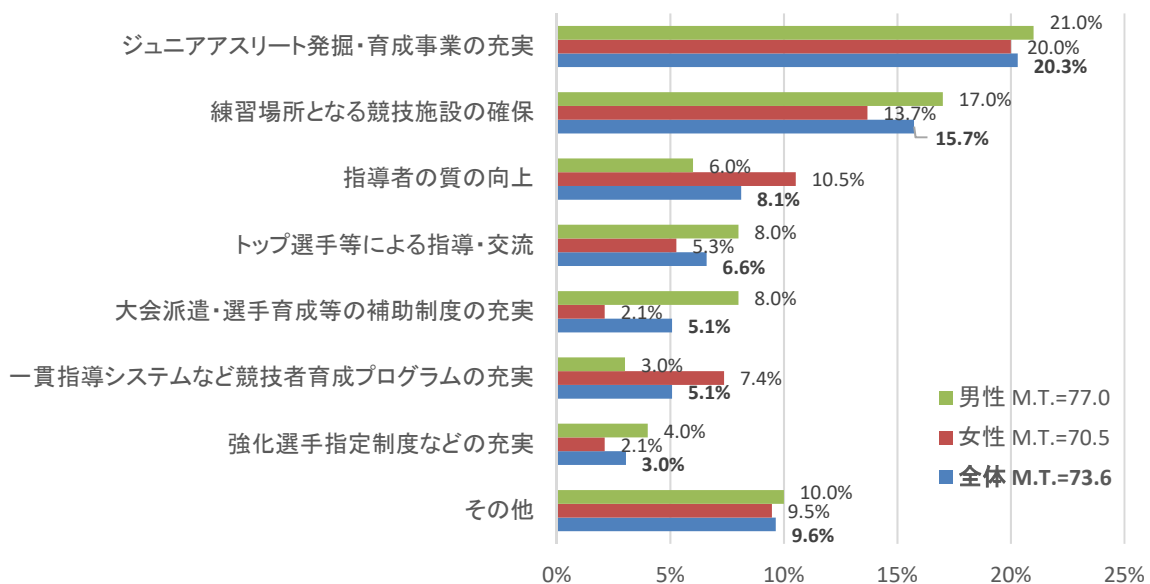


図49. 競技力向上のために最も大事なこと

(5) アーバンスポーツについて

佐賀市がアーバンスポーツを街なかで行えるように整備していこうとしている取り組みについては全体で賛成が47.0%、どちらでもないが47.0%と反対が非常に少ない結果となった(図50)。

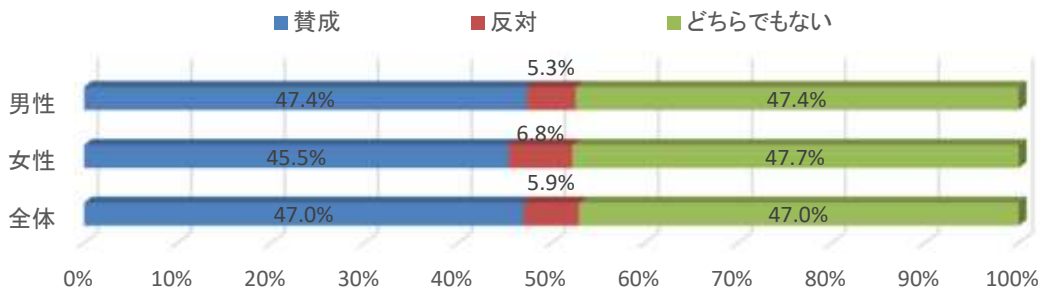


図50. アーバンスポーツの取り組み(整備)について

(6) 部活動の地域移行について

スポーツ庁(国)の方針として、学校運動部活動が地域に移行しようとしていることについて、どのような活動のあり方が理想か聞いたところ、「専門的で丁寧な指導が受けられる」や「いろいろな世代や年齢の人と一緒に活動ができる」が多い値を示している(図51)。

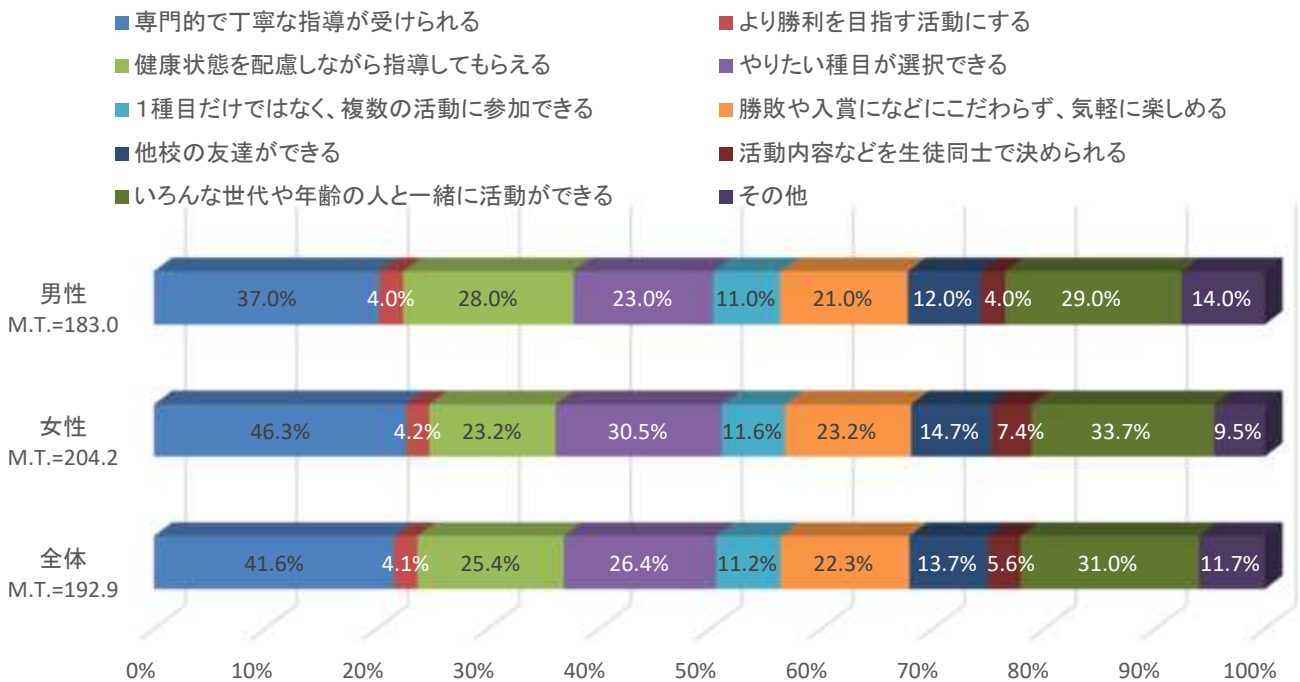


図51. 学校部活動地域移行の活動のあり方について

【自由意見】佐賀市のスポーツ振興についてのご意見（一部抜粋）※文面は記載のまま掲載

| | | | |
|--|----|-----|-------------|
| 運動することは楽しいです。人との交流もあり、けど、そこまで行きつくことは少し大変です。転勤してくる人は、そこまで行くのに時間がかかります。だれかが声かけてくればいいのですが。。他の県から来た人の意見をきいて、それを取り入れないと、流動的な考えはむずかしいと思います。その県や市だけのあんもくの方法があるみたいで。けど、がんばって下さい。 | 女性 | 40代 | 肢体不自由 |
| TRFのサムさんのDVD、誰でも歌いながら踊るエクササイズみたいな誰でも健康になれる企画をラジオ体操のように普及させて欲しい。スポーツではないが”笑いヨガ”や”マインドフルネス”をスポーツのウォーミングや合間に入れる工夫をしていただきたい。中国の太極拳みたいに家からすぐの空き地で誰もが簡単に集える地域づくりの場を作れるよう知恵をみんなで出し合って作り上げていきたい。 | 男性 | 50代 | 精神障がい |
| よていがあればいきたいです | 男性 | 10代 | 知的障がい |
| 良い人材、優れている選手を県内で選出して育てる | 男性 | 60代 | 肢体不自由、内部障がい |
| スポーツの力で佐賀をもっと良くしていつてもらえたらと思います。応援しております。 | 男性 | 20代 | 精神障がい |
| 皆がスポーツに関心をもてるよがんばって下さい | 女性 | 70代 | 内部障がい |
| このアンケートを無作為抽出だと書かれていますが、明らかに障がい者を対象にしたアンケートですよね。何故そこが書かれてないのでしょうか？ | 女性 | 50代 | 肢体不自由 |
| 情報の周知は、いくぶん不十分では？ | 女性 | 60代 | 肢体不自由 |
| 健康運動センターのプールを良く利用させて頂いております。施設はとても使いやすいのですが、以前男性が女性に不快な思いをさせたとして一時利用停止になった方が近くにいらっしゃるととても不安です。私は下肢に障害がある為、何かあった時すぐ逃げられません。そういうことを一度でも起こした方には申し訳ないですがずっと利用停止にするよう、決まり事を市で作って欲しいと思います | 女性 | 30代 | 肢体不自由 |
| 学校運動部活動が地域での活動に移行すると、校区外への移動が必要となり、手段としては自転車を選ばれるようになるのではないのでしょうか。サイクリングそのものが運動・スポーツとみなされるのであれば、この機に広く自転車の購入支援や道路のサイクリングロードの舗装を押し進めて、学生以外の層にも趣味としてサイクリングを浸透させるのはいかがでしょうか。コミュニティへの所属から始めなくてはならない類のすぽ一つよりは個人が始める | 男性 | 30代 | 精神障がい |

| | | | |
|--|----|-----|-------------------|
| 障壁は小さいと思います。 | | | |
| スポーツにあまり関心がないのでわからない | 女性 | 20代 | 精神障がい |
| 重度の知的障がい、自閉症であっても健康のためには運動は必要。このような障がい者でも利用しやすい環境を作ってほしい。 | 女性 | 30代 | 知的障がい |
| 「みんなが同じように」ではなく、多種多様が色んな世界や可能性を生み出しやすいと思います。 | 女性 | 50代 | 肢体不自由 |
| 基本は受益者負担 | 女性 | 20代 | 肢体不自由 |
| アリーナは夜遅くまでであると、帰りのバスがない。中極経由小城行は20時台までしかない。車を停めることもないし、行きづらくなった。 | 女性 | 40代 | 聴覚・平衡・機能障がい |
| スポーツ振興に力を入れてほしい | 男性 | 60代 | 内部障がい |
| だれでも気軽に出来るスポーツをふやしてほしい | 女性 | 70代 | 肢体不自由 |
| 佐賀のスポーツ人口はやっぱりよその県よりも少ないと思います。したくてもできない、自分がしてみたいスポーツクラブなどがなくての理由だと思います。とくに若い方の人口が少ないと思います。アンケートに色々かくより、じっくりさせた方がいいと思う。まずつってみては？こんごきたいしますよ。 | 女性 | 50代 | 知的障がい |
| 来年の国スポ開催以降の計画をしっかりとやって欲しい。 | 男性 | 60代 | 内部障がい |
| スポーツができる事はいい事です。私は軽い運動しかできないので、ウォーキングや家でのヨガやラジオ体操をして体力をつけています。障がいのある方が少しずつスポーツに取り組んでいけるといいです。 | 女性 | 30代 | 内部障がい |
| 例えば駅伝マラソン大会、リレー大会、たのしく競技交流会があれば良いかなと思っています。 | 女性 | 50代 | 聴覚・平衡・機能障がい |
| 健康で楽しめたら良い。勝負にこだわるからすべてに金がかかる。 | 男性 | 60代 | 肢体不自由 |
| 公園でキャッチボールができるようにして欲しい。今はできない所が増えた為、子供が子供らしく遊べる環境作りを。 | 男性 | 20代 | 内部障がい |
| 本調査は障がい者が回答するには問いが多すぎる。より簡潔なものがよい | 男性 | 20代 | 肢体不自由 |
| 今まで以上に色々な取り組みががんばってください | 女性 | 60代 | 肢体不自由 |
| 佐賀市は交通の便が悪いと思います。特にバス。私なんか一人で出かけられないです。 | 女性 | 60代 | 肢体不自由 |
| 小・中・高校生の皆さんには勉強だけではなくスポーツを通して何かを学んでほしい。そのためには幼少の時期にスポーツにかかわり将来の基盤を体験してもらいたい。 | 女性 | 40代 | 聴覚・平衡・機能障がい、精神障がい |

| | | | |
|---|----|-----|-------------------|
| スポーツは社会全体や個人の人生を豊かにすると思います。これからもスポーツ振興に力を注いでいただきたいです。 | 男性 | 50代 | 内部障がい |
| 外国人選手や観戦者も増えているので、そこに対応できる人、関係者、プロモーションの充実があるといいと思う | 女性 | 30代 | 肢体不自由 |
| 障害者も競技場で練習をもっとさせて欲しい環境を作ってほしい | 男性 | 50代 | 肢体不自由 |
| このアンケートから何がわかる？郵便代や個人の時間のムダ？他にすることあるでしょ？すごくばからしい。 | 女性 | 60代 | 内部障がい |
| スケートボードが練習できる場所が全くないので作ってほしい | 男性 | 40代 | 肢体不自由 |
| 重度障がい者（児）は自分での移動はできません。必ず家族か支援者が必要になります。会場まで行くことだけではなく、会場内でも不安などがあり、動けなくなることも多くあります。だれでもが楽しく活動できるスポーツをするのはとてもありがたいので、安全・安心に参加できるプログラムをぜひ作ってほしいと思います。（家族の負担が多すぎる） | 男性 | 20代 | 聴覚・平衡・機能障がい、知的障がい |
| 障害をもっている人、そうでない人が関係なく一緒にできるよは、みていてすてきだと思うけど、障がいを持っている人が、その人からして健康な人とするのは抵抗があると思う人もいるので、細かな種類、選択肢を作ることが大切なのかなと思います。例えば、少しだけ怖いけれど、誰とでもやってみただけ、やってみたらまだ怖い。やりたくないと思ったら、違う場所、反対側のコート、時間を自分の好きなように調節できるものがあるといいのではないかと思います。 | 女性 | 10代 | 肢体不自由 |
| 人口が少なく良い指導者がいない。財政もゆとりがない。無理せず、何かの才能がある人がつぶれない程度に余り大がかりでない位が持続しやすいと思う。バスが早朝夜間が足りないのが難しい。無人の研究など色々して車がなくても移動に困らないようにしてほしい。それがないと運動に行きつかない。 | 女性 | 40代 | 精神障がい |
| もともとあまりスポーツはしていませんでしたが（30代まではしてました）最近足が悪くなり、ますますできなくなりました。しかし、最近、佐賀はサッカーにバスケ、バレーとプロスポーツがさかんになり。身近に観戦できるようになりましたので、観ることでスポーツに参加していきたいです。また佐賀マラソンも定着してきたと思います。スポーツの街だなと感じます。あと、子どもの部活の試合観戦に参加していますが、バスケ部なので学校の体育館で | 女性 | 50代 | 肢体不自由 |

| | | | |
|---|----|-----|-------|
| 試合をしています。観戦する場所2階で、足が悪い（杖をついています）私は、昇り降りの手すりがない階段がほとんどなので怖いです。また、市の体育館である時は、エレベーターがあつたり階段に手すりはありますが、昔からある体育館はトイレが和式が多く、洋式しか座れなくなって少し困ります。市や県の体育館に入口はスロープが端っこにあって、しかも距離が長い車椅子は使わなくても階段よりスロープを使いたい人は不便です。真ん中にもスロープがあれば良いと思います。このアンケート自体もう少し若い人向けの内容かと思いました。 | | | |
| 運動はすごく好きですが、外出をするのが苦手で交友関係がうまくいきません。 | 男性 | 40代 | 精神障がい |
| 障がいの有無、年齢、性別に関わらず、いつでも気軽に楽しめるスポーツ・場所があると嬉しいです。 | 女性 | 50代 | 内部障がい |
| 健康運動センターの大人料金が高いのでひんぱんには行けない。健康運動センターのトレーニングルームが中学生が使えないのは不便。（大人同伴ならOKにしてほしい） | 女性 | 10代 | 精神障がい |
| もっと人材育成に力を入れ後継者を育てることが必要である。また広報をもっと行い、市民に知ってもらうようにする。 | 男性 | 60代 | 内部障がい |